

ぼうさいこくたい2024  
多様な主体と連携した社協における  
災害支援の取り組み

# 生協の災害支援の取り組みと 多様な主体との連携に向けて

---

日本生活協同組合連合会  
組織推進本部 社会・地域活動推進部  
地域コミュニティG 前田 昌宏

## ●生協とは

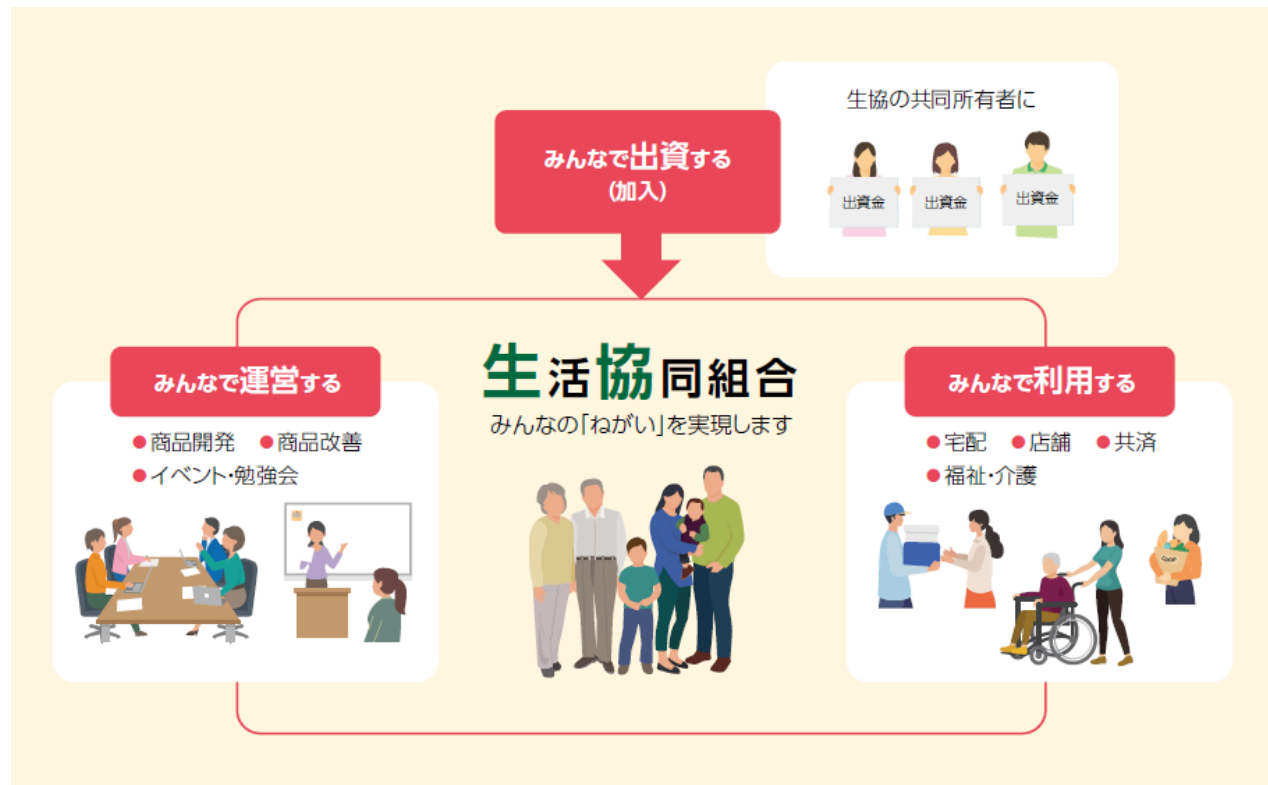
「消費生活協同組合法（略称 生協法）」に基づいて設立される協同組合のひとつで、利用者である組合員自身が出資し、意思決定や運営に参画しています。

## ●事業種類は

宅配や店舗での商品供給、共済、医療・福祉事業などを行っています。

## ●組合員組織として

組合員同士の助け合い活動や暮らしに関わる学習活動など、各地域で幅広い活動に取り組んでいます。



- そもそも生協は組合員同士が多面的に関わるコミュニティ組織
- 全国に3,063万人(2023年度)の組合員がいる。

# 大正時代から受け継がれる生協の被災者支援

## ■ 関東大震災（1923年）

- ・日本の生協の創設者・賀川豊彦は、1923年、被災者支援のため東京に移住。
- ・消費組合、医療利用組合（新渡戸稲造と東京医療利用組合）、質庫信用組合を創設。ボランティア活動を開始。

## ■ 阪神・淡路大震災（1995年）

- ・コープこうべは被災者支援に尽力。全国が生協も応援。この経験が全国に受け継がれ、震災への備えを開始。自治体との物資支援協定（現在約900自治体）へ。

## ■ 東日本大震災（2011年）

- ・発災当日より被災地の生協による被災者支援。
- ・全国の生協も人的・物的支援を組織的に実施。
- ・福祉施設を回って必要な物資を聞き取り支援。仮設住宅でのサロン活動など。
- ・社協ボラセンへの運営者派遣（引っ越し支援）、組合員のボランティア（ボランティアバス）に加えて独自のボランティアセンター設置なども。



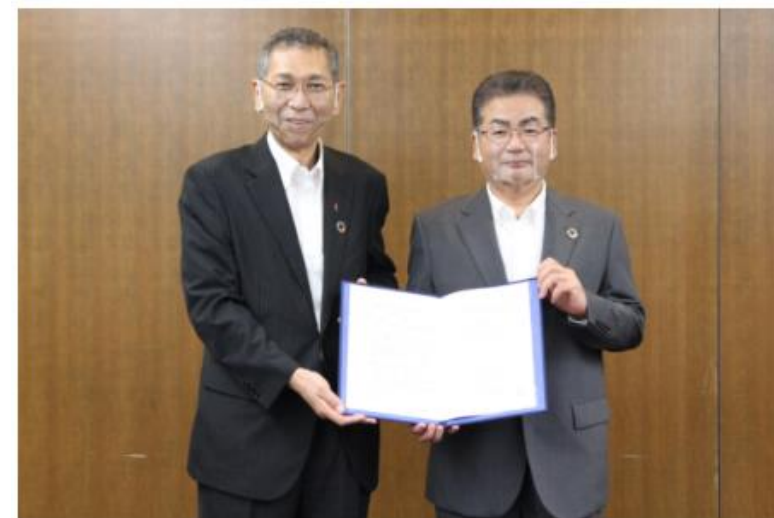
# 全国各地の社会福祉協議会との協定締結



熊本県では、KVOAD、県社協、生協くまもとの三者での協定を締結(2020年10月)



大阪府では、全国組織の協定後に県域で協定を締結。その後、各地域単位でも協定を締結。(2021年以降)



全社協と日本生協連の全国組織同士の協定で全国の協定締結を後押し。(2021年8月)

ボランティア  
センターの  
設置・運営

災害ボラ  
ン設置場所  
の提供

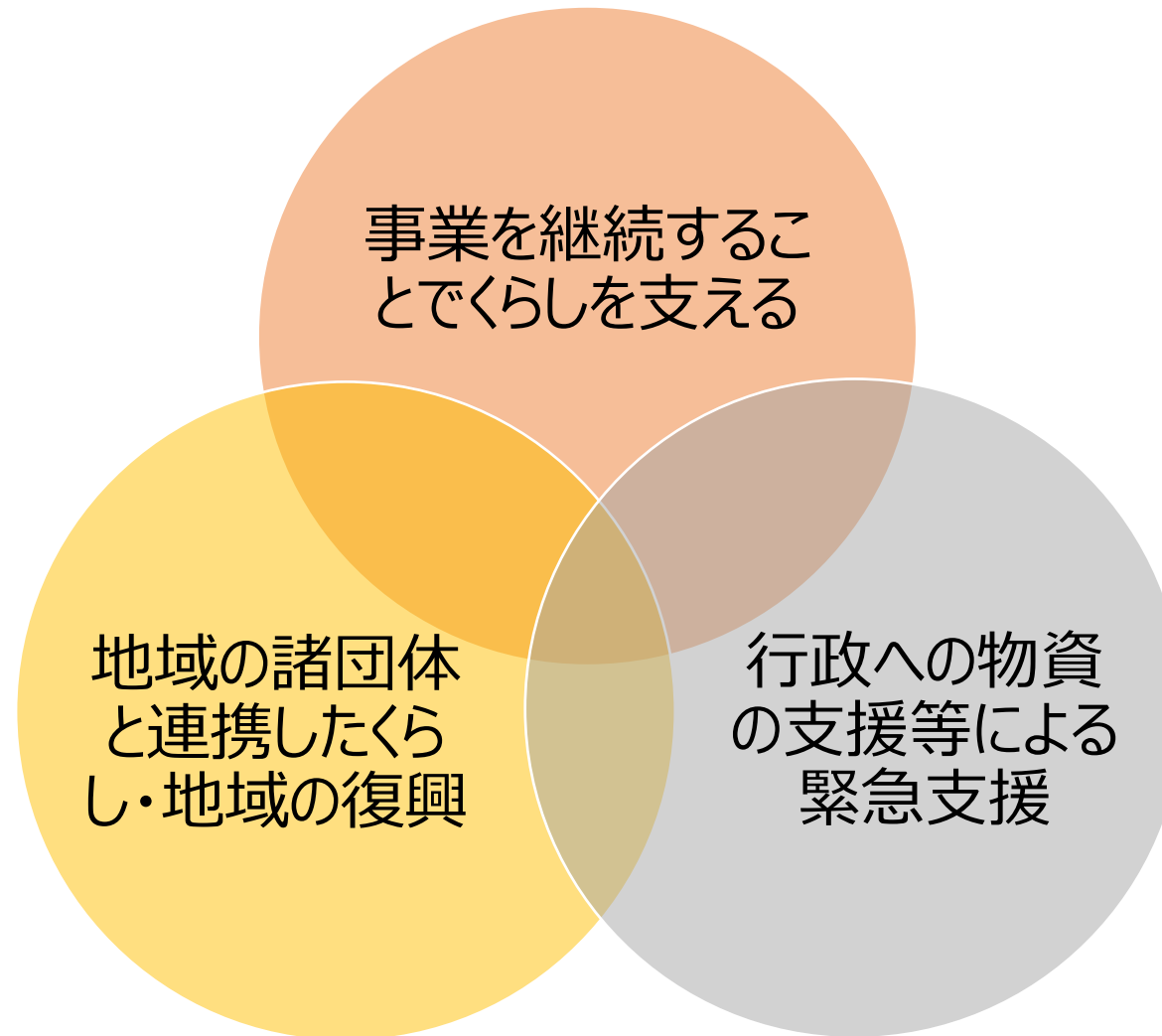
被災者への  
食料支援  
等




資材などの  
調達及び  
仕分・配送

平時からの  
連絡会議  
の設置

情報共有

# 災害時に生協が果たす役割



| 支援項目  | 取り組み概要  |
|---|---|
| <b>緊急期支援</b><br> | <ul style="list-style-type: none"> <li>全国各地の生協から被災地に届けられた<b>支援物資：推定102万7千点</b>(2011年5月10日集計)。<b>人員数のべ3,587人、車両のべ1,190台</b>(2011年4月28日集計)。</li> <li>被災地の要望に応えたタンクローリーによる<b>燃料支援</b>。事業再開のための<b>配送資材</b>として折り畳みコンテナやカゴ車等の支援</li> <li>CO・OP共済加入組合員に<b>共済金・見舞金を迅速に支払う</b>ために、全国の生協からのべ<b>2,736人が訪問活動</b>に参加(2011年4月30日集計)。</li> <li><b>避難所での炊き出し</b>(おにぎり、弁当、各種炊出しを組合員が実施)</li> </ul> |
| <b>募金</b><br>    | <ul style="list-style-type: none"> <li>全国の生協が募金活動に取り組み、<b>発災後1年間の募金額は約42億円</b>にのぼる。</li> <li>その後も<b>目的別<sup>(※)</sup>の復興支援募金</b>に取り組み支援金として約9億円となった。</li> </ul> <div data-bbox="2153 678 2484 806"> <b>総額51億円超</b><br/>       (2011年～2019年)     </div> <p>(※)①仮設住宅灯油支援、②安心して暮らせる福島支援、③福島の子ども保養、④ボランティア支援、⑤学校図書応援など。</p>   |
| <b>買い物支援</b>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>被災地の生協では、買い物困難者に対して、<b>移動販売、買い物バスの運行等</b>を実施。</li> </ul>   |
| <b>人的支援</b><br> | <ul style="list-style-type: none"> <li>自治体、社会福祉協議会(災害ボランティアセンター(VC))、ボランティア団体等と協力し、積極的なボランティア活動を実施。<b>災害VCへの運営支援としては、岩手県宮古市、大槌町、陸前高田市に15名が229日活動。宮城県亘理町へ21人が229日活動した。仮設住宅への引越支援に146人が活動。</b></li> <li><b>独自に生協にもVCを作り、</b>現地の組合員ボランティアと共に、ふれあい喫茶、青空カフェ、歌声広場、日用・品・衣服のバザー等を実施。</li> </ul>   |
| <b>被災地の産品を買い支える取り組み</b>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>岩手県・宮城県・福島県を中心とする被災した地域の産品を「<b>買って支える取り組み</b>」2012年度で約<b>44億円</b>。また、「<b>食のみやぎ復興ネットワーク</b>」による商品開発等によるプロジェクトをスタート。</li> <li>東北で作られた<b>手作り品を販売するためのカタログ「FUCCO」</b>の発行と普及。</li> </ul>  |

## 2016年熊本地震

熊本県生協連のもとに設置した「コープ被災地支援センター」で全国の生協が活動

## 1. 活動実績

- (1) 活動期間：2016年5月26日～(木) 7月31日(日)
- (2) 活動実績：**30生協・事業連合より127人を派遣**（※事務局・コーディネーター含む）

## 2. 活動内容

**(1) 西原村・益城町・熊本市東部での引っ越し支援（自宅・避難所→仮設住宅等）**

・西原村37件、益城町14件、熊本市24件、合計75件

**(2) 益城町・西原村・熊本市の各災害VCへの支援**

- ・運営支援スタッフの派遣：マッチング係、ニーズ係、車両係、資材係、駐車場係
- ・物資の無償提供：スポーツドリンク、ミネラルウォーター、塩飴等
- ・冷却用の氷の無償提供（支援センターで製氷し搬入）

## (3) 炊き出し支援

- ・4月20日～7月8日までの炊き出し：合計24回、食数 6,147食



引っ越し支援での家財運搬



益城町災害VCのニーズ係



益城町災害VCの資材係



災害VCに氷や凍らせたおしぼり・飲料を配達

## 2018年西日本豪雨

岡山県・広島県の生協のもとに「コープ災害支援情報センター」を設置し全国の生協が活動

## 1. 活動実績

- (1) 活動期間：2018年7月21日(土)～9月28日(金) ※両方のセンターをまとめて記載
- (2) 活動実績：岡山県倉敷市→**30生協・事業連合より53人を派遣**(地元生協含む)  
 広島県広島市→**23生協・事業連合より32人を派遣**

## 2. 活動内容

## (1) 倉敷市・広島市安芸区、坂町の各災害VCへの支援

- ・コーディネーター/運営支援者の派遣（マッチング係、ニーズ係、車両係、資材係、駐車場係）
- ・物資の提供：お茶、スポーツドリンク、ミネラルウォーター、塩飴
- ・医療福祉生協からの看護師の派遣(広島)

## (2) ボランティア活動

- ・被害の大きかった岡山県・広島県・愛媛県の生協は、職員によるボランティア活動（被災家屋の泥出し等）を実施。  
 広島県では作業人員の不足もありボランティアを全国の生協に呼びかけ。



災害VCサテライトでの受付業務(岡山)



ボランティアへのオリエンテーション(広島)



派遣された看護師の方とのミーティング



ボランティアバスを運行

## 2019年台風19号

長野県、宮城県の社協からの要請で災害VC運営支援を中心に活動

## 1. 活動実績

- (1) 活動期間：2019年10月25日～11月30日 ※両方のセンターをまとめて記載
- (2) 活動実績：長野県長野市➡33生協・事業連合から50名を派遣  
宮城県丸森町➡15生協・事業連合から20名を派遣

## 2. 活動内容

## (1) 長野市災害VCの運営支援

- ・受付班、資材班、避難所運営支援、農業VCの運営支援、情報共有会議へ参加

## (2) 丸森町災害VCの運営支援

- ・受付班、資材班、被災者ニーズ聞き取り(11月下旬～)、丸森町で開催された情報共有会議へ参加



災害VCでの受付業務(長野市)



資機材の洗浄業務(宮城県丸森町)

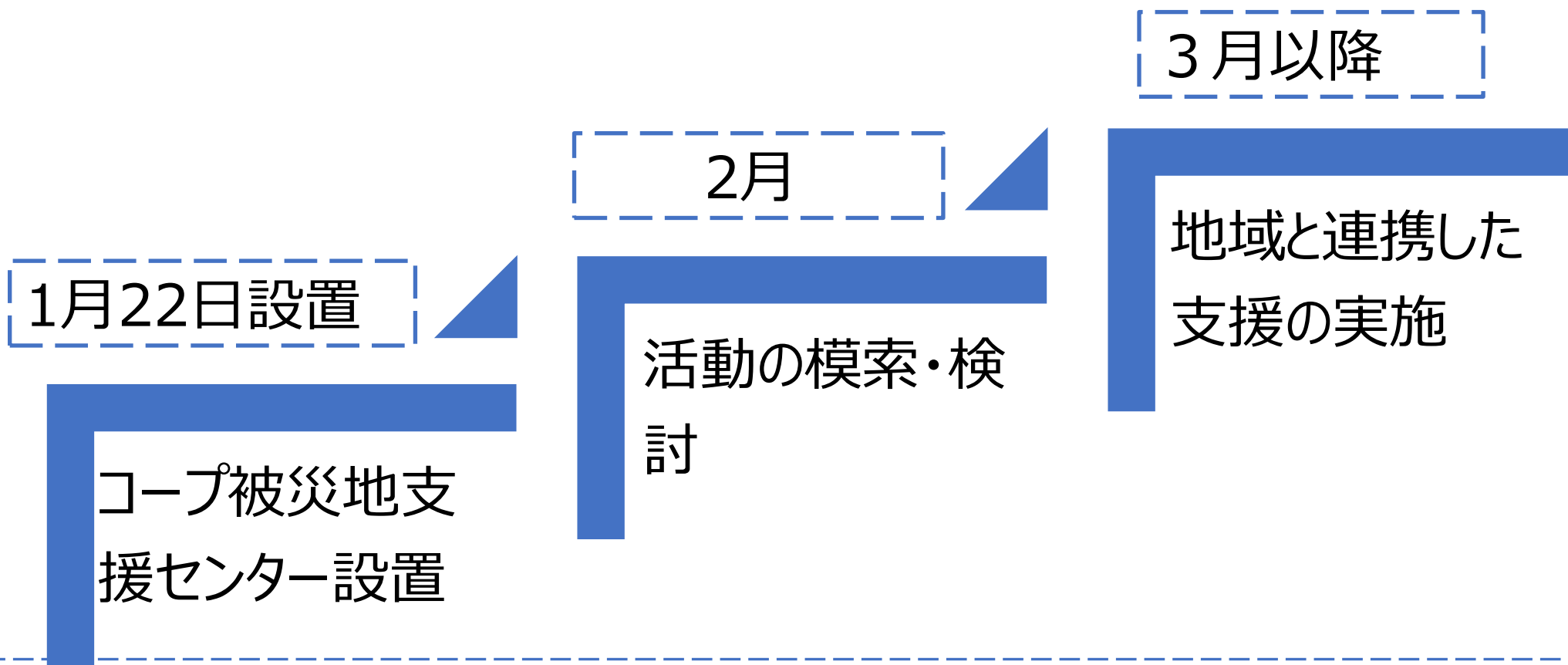


避難所運営支援でのニーズ・シーズ受付の様子(長野市)



農業ボランティア受付(長野市)

# 石川県生協連 コープ被災地支援センター設置からこれまでの流れ



**設置目的** ▶ 石川県生協連が被災地域の災害ボランティアセンターや民間団体等と連携して支援活動に取り組むために設置。日本生協連は「コープ被災地支援センター」に専任者派遣を含めて全面的な協力と支援を行う。

## 輪島市

- ・災害ボランティアセンター運営支援
- ・ユニセフ緊急支援用テントの寄贈
- ・炊き出し
- ・避難所へ朝食セットを提供



## 七尾市

- ・七尾市を拠点とする災害NGOへ配送トラックを寄贈
- ・災害NPOの支援金贈呈



## 金沢市

- ・仮設住宅へ日用品支援
- ・1.5次避難所へ介護職員を派遣



## 珠洲市

- ・自衛隊と協力した緊急物資支援



## 能登町

- ・災害ボランティアセンター運営支援
- ・仮設住宅全軒へ調味料セットを提供（他自治体へも順次拡大予定）
- ・サロン活動※医療福祉生協連



## 穴水町

- ・災害ボランティアセンター運営支援

※ 赤字は全国の生協からの募金を原資にして全国各地からの生協が入った支援活動です

その他、二次避難先の県内自治体でも支援を実施しています **11**

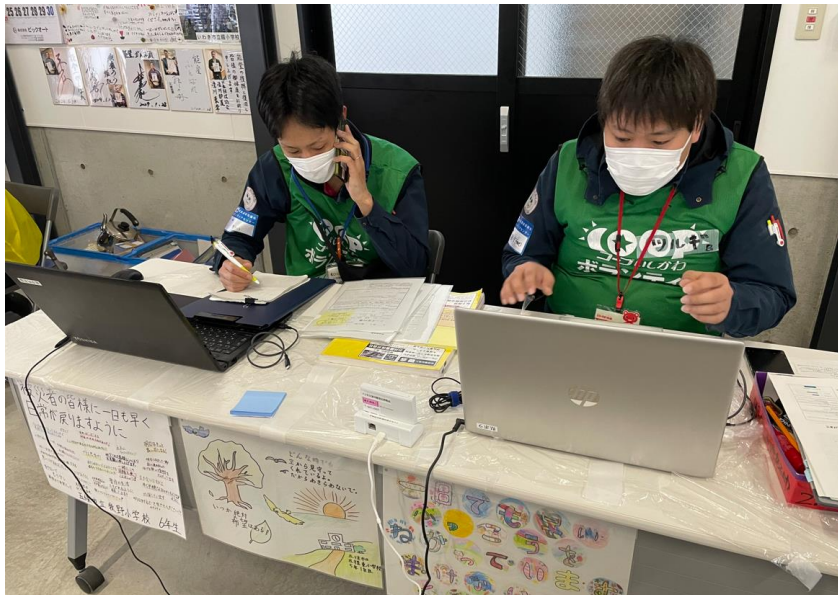
# コープ被災地支援センター取り組み概要(抜粋)



|   | 支援項目                                       | 詳細   |
|---|--|--|
| 1 | 能登町社協、穴水町社協、輪島市社協設置の <b>災害ボランティアセンター支援</b> | <ul style="list-style-type: none"><li>【能登町】3/11～5/11にかけて、全14タームに渡り、<b>26生協からのべ121人</b>(事務局含む)の全国の生協職員が運営支援および活動に入った。</li><li>【穴水町】6/7～9/29にかけて、全15タームに渡り、<b>20生協からのべ57人</b>(事務局含む)の全国の生協の職員が運営支援に入った。</li><li>【輪島市】10/4～運営支援を開始。</li></ul> |
| 2 | 輪島市への <b>朝食用物資</b> の提供(※)                  | <ul style="list-style-type: none"><li>2/26から、最大25の避難所向けに食数やお届け商品の拡充を図りながら<b>総計305,400食分を提供</b>。</li></ul>  |
| 3 | 金沢市内の <b>仮設住宅への生活雑貨の提供</b> (※)             | <ul style="list-style-type: none"><li>衣料品や生活雑貨などの生活物資支援を実施。開始からの<b>累計で946件の注文</b>を頂き、随時お届け。</li></ul>  |
| 4 | <b>仮設住宅入居者への生活支援物資提供</b>                   | <ul style="list-style-type: none"><li>9/25までに<b>5,300セット分を納品</b>。仮設住宅の設置にあわせて引き続き実施。</li></ul>   |
| 5 | 現地支援を行うNPO・NGO、社協に対する物資提供の協力               | <ul style="list-style-type: none"><li>会員生協の<b>炊き出し等の支援窓口として連携可能なNPO/NGOの紹介</b>を実施。複数の生協が被災地での炊き出し活動等を行っている。</li><li><b>石川県社協がみなし仮設訪問活動で使用する物資としてラップを500個提供</b>。</li><li><b>夏の熱中症対策の飲料として石川県社協から要請のあったスポーツドリンク・お茶を115ケース提供</b>。</li></ul>   |
| 6 | 会員生協の炊き出し等のボランティア活動についてのコーディネート            |  |
| 7 | ニュースの発行(右に添付)                              | <ul style="list-style-type: none"><li>2024年度から<b>コープ被災地支援センター「『かけはし』コープ被災地支援センターニュース 能登半島支援の現場から」</b>を毎週発行</li></ul>   |

(※)災害救助法に基づく支援







## ●関わる時期、災害の種別、市町が異なれば全く別のボラセン

- 過去から各地の災害VCに支援に入っているが、どのVCの運営も細部はもちろん大きく異なるVCも多い。入るたびにゼロから学び直し。

## ●きめ細かく被災者に寄り添う社協の皆さんの仕事の姿勢が学びに

- 全国からのブロック派遣の職員の方の傾聴の姿勢が同じく地域に根差して活動する生協 職員にとっても学びになる。

## ●平時からつながり訓練をすることの重要性

- 全国の社協の皆さんや多様な組織の方々と一緒に業務をするとそれだけで緊張感やストレスもある
- 地元の社協の方と地元の生協は少なくとも顔の見える関係、少し無理の言い合える関係ができていることが望ましい。できれば災害VC設置の訓練などご一緒できると良い。

## ●災害VCに加えて、さらにできる支援もあるのでは

- 災害VCだけではなく、地域支え合いセンターの運営など双方のニーズ・シーズを事前にすり合わせておけないか

# つながる力で 未来をつくる — CO-OP 2030 —

全国の生協は「どこよりも長く、そしてどこよりもきめ細かくよりそって」をスローガンに、引き続き、息長く被災地に寄り添い続けます。